

諸達部類 卷一

從明治元年九月
至明治三年十月

諸達部類 卷一 從明治元年九月至明治三年十月

125

諸達部類

卷一

大學南校

從明治元年戊辰九月至明治三年庚午十月

五十年史料
125

諸達部類

己巳正月開學以後ハ記載ノ書備ラ
サル無シト雖開學以前ハ諸達ノ類
頗ル僅少ニ屬ス今戊辰ノ冬ハ僅少
ノ終ヲ録シ己巳ノ諸録ハ檢閲シテ
其要ヲ摘撮シ首ニ校内ハ関スル所
ノ申達ヲ記シ次ニ校外ハ出ス所ノ
達掛合ヲ記ス



B 95417

己巳

諸達部類

申達之部

己巳

三月十八日

教授試補

江原鉦次郎

右寄宿寮取締相達候事

四月十四日

大學南校

三等教授

岩渕龍太郎

右寄宿寮取締相達候事

二等教授

入江文郎

右寄宿寮惣取締相達候事

四月廿三日

田中仙永

右尔来之役ヲ以テ植物御用掛リ
相達候事

四月廿九日

土屋榮五郎

右自来之役ヲ以テ講習所并寮中
會講掛相達候事

五月六日

岩淵龍太郎

右依願寮中取締差免候段相達候
事

江原鉦次郎

右寮中取締差免教授自來之通

可心得段相達候事

八月六日

小嶋少主簿

右本務除切り及譯校合可相勤段
相達候事

高橋史生

右書籍掛り相達候事

土伎史生

大學南校

大學南校
右宮中大學校誥相達候事

八月十五日

川井使部

右學掌助ノ心得ヲ以テ相勤ノ且
御馬掛リ相達候事

石井使部

小田使部

平塚使部

右寄宿寮掛リ相達候事

八月十九日

坂田少得業生

右書籍掛リ兼勤相達候事

十二月四日

瀬昭中助教

横瀬中助教

右英講習所取締可相勤事

大學南校

後藤中助教

伊藤少助教

右英傳習所取締可相勤相達候事

土屋大得業生

右英講習所取締心得可相勤相達

候事

田中中助教

右佛傳習所取締可相勤相達候事

辻少助教

林中寮長兼中得業生

佛講習所取締心得可相勤相達候事

佐原少助教

山本少助教

數學所取締可相勤相達候事

十二月十五日

内田中博士

箕作中博士

右翻譯督務可致旨相達候事

小嶋權大主簿

右寫字生取締ノ心得ヲ以テ可相

勤旨相達候事

十二月廿二日

藤澤使部

直井使部

右外人薩清可相勤旨相達候事

達掛合之部

開河の水はゆるぎなく流れて
東橋の二橋は平たき危し
河を渡るは古き舟に
舟は尤も開市に
舟は尤も開市に
舟は尤も開市に

予自來文之起之日而猶通籍將
府辦事中下之方之知如彼者

川勝近江

九月 柳河春三

元海軍者係信實不誤後以事
上之口所之川移之成可如海

水野少海屋 川勝近江

杉浦武少海屋 柳河春三

関成内之月向之海軍元海軍不
立初約法如彼能如後之少以自
之月海軍之知如彼能如後之少以自
之月海軍之知如彼能如後之少以自

予、口授抄りし、細い筆、一、二、三、

十月九日

書物、
下、
四、

十月十四

軍務官

開成學校

四、

筆地、開成所、
十八日、

山、
向、

山、
及、

二月十日

大學南校

東京

運上新中 開成學校

築地開成市 成業西門至合 經路乃...

軍務官上引路行政官以達三月廿八日

引路中修心外修心及...

二月

開成市物不新由乃有乃山雲物乃乃
山雲上物木乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃

十月

開成學校

東京府

運上乃乃乃

水野小坡屋
杉浦武官屋
川勝近江
柳河春三

開成所出物所更中以此爲重其用之義
左向主法妙由金衣之拂之如沙細度
難離皮上之尖者即金也而爲所以以底
背之知砂從少恒及少與金人

九月十日

書局に送承分金書多し
以て千石を物方と判し
新書の
書局の
以て千石を物方と判し
新書の

九月十日

杉浦武三郎

水野外郎

川勝近江

杉浦武三郎

柳河春三

関内初許し
水野外郎
杉浦武三郎
柳河春三

九月十日

大學南校

吳承所

判事

午東暈上移搖

別事

去年十月申至本局出算より而方角使用金五百兩
 出級所入金之同より出旦一り金は金文者も南方も勘定
 仕上り難者立取る金計實より出級所より出病
 方々松島正以隠藏金なりし也

乙酉月

大學

礼

書南校後令書返還海方中紙之紙被
水多し物より多し書東京府管轄中一紙
其紙之紙用仕掛帳紙金書原中川源
下り之紙古世紙及紙抄紙也

礼

書之礼之紙水多し一紙用東京府管轄
一紙東京府管轄中一紙用東京府管轄中
一紙東京府管轄中一紙用東京府管轄中

書之礼之紙水多し一紙用東京府管轄
一紙東京府管轄中一紙用東京府管轄中
一紙東京府管轄中一紙用東京府管轄中

書之礼之紙水多し一紙用東京府管轄
一紙東京府管轄中一紙用東京府管轄中
一紙東京府管轄中一紙用東京府管轄中

書之礼之紙水多し一紙用東京府管轄
一紙東京府管轄中一紙用東京府管轄中
一紙東京府管轄中一紙用東京府管轄中

書之礼之紙水多し一紙用東京府管轄
一紙東京府管轄中一紙用東京府管轄中
一紙東京府管轄中一紙用東京府管轄中

書之礼之紙水多し一紙用東京府管轄
一紙東京府管轄中一紙用東京府管轄中
一紙東京府管轄中一紙用東京府管轄中

四月廿二日
東京運上訓

東京府

市中

并奉訓

築代並奉訓 山崎俊并 小栗村を外諸入用し紙
 活紙紙運上初より一時播磨金と紙并有るを
 世より新より播磨金入方と紙は海産有る
 東京府府属中紙は紙改変り士難く之を
 所より渡金とあり紙又と南局と拘る向より
 紙運上より紙いより紙と紙並有る所

大學南校

一、委係一不戒使用之洞情者係且強令其
 于出級和返上物一委係在出級少更者一也

己酉月

二

此書田入用節と云ふ府海屬中と云ふ
 所をその方々金井及と云ふ所を金井と云ふ
 所を海と云ふ所を海と云ふ所を海と云ふ

育

系府

師也

少書田之秋波水初生時
 少中而向東海屋中
 少用也日租之節
 川合在極多
 少中而向東
 少中而向東
 少中而向東

二月

并奉書授

大藥考

二月三日

再少々札之返水書しあへり列丹之用性

金多南府ありて仕掛り物に必要あり

おろしや

二月

東京府

利以列丹より留る事 片や

薩長軍兵所諸之用五酒帳

金金に成帳之要を安永百文作

内

金金に成帳之要を安永百文作

市古藏印付
中紙後紙入用

金金に成帳

教師後紙
前口紙

大學南校

役訓令是處令

訓令事務及種

事務事務運送所

松山の事務人少

中用役給料筆

墨紙岩紙糸

襦袢上代

手外費用

全百三應安或分

永或百三應安或分

右東京府附庸中云辰十月十日十月十日迄諸令用

書面より通す所を其内訳仕上り執定より列帳より同有る分

より通す所を其内訳仕上り執定より列帳より同有る分

己酉月

関成所

東京

以中

陣了了所

先事而手取向に南分操部事令百由拂

方より東京府より組合方より起る内

より拂ふに百由拂ふ内より百又甲

以後百東京府より引渡る残金あり

大學南校

武分小百思物九文市卜大主守同く其可所
有より越り右後合同日南局占居入
有より解手更及少抄合所也

己三月二日

東京

軍上所

開成所

中

武分小百思物九文市卜大主守同く其可所
有より越り右後合同日南局占居入
有より解手更及少抄合所也

己三月二日

大學南校

閑成所

以事所改官管轄
以甘以系也

事

辰十月

東京府

閑成所

了

大學南校

青，名，字，也，無，石，水。
石，水，也。

上之屋豈汝抵死

開西行記

雜司之爲材也

元國所轄地方附屬極大地

十
九
十
數
三
三
四
子
坪

同部 志々新

以江叔七子之序

古之四民者之市書而通之者
其又門漢園而新物者乃其地也
其向以名之者一或則成結而或收
其流以任之者

原上

開成學子校

東京府

市

當方此所武分乃為郡雜司之台村地也
旧幕府開成所物產植地武之所之儀
門續以之植地也之乃之乃之乃之乃之
乃之乃之乃之乃之乃之乃之乃之乃之
乃之乃之乃之乃之乃之乃之乃之乃之
乃之乃之乃之乃之乃之乃之乃之乃之

后十月

大學南校

東京府

開成所

今設騎兵部以統武備其官分設以
下其行政官以江戶府以武官以
明倫之術以治其民以武官以治其
民以武官以治其民以武官以治其

后十月十七日

大學南校

型 //



大學南校

往來

橋門

西

關成石

上之町

水谷竹四郎

少長

吉田善徳

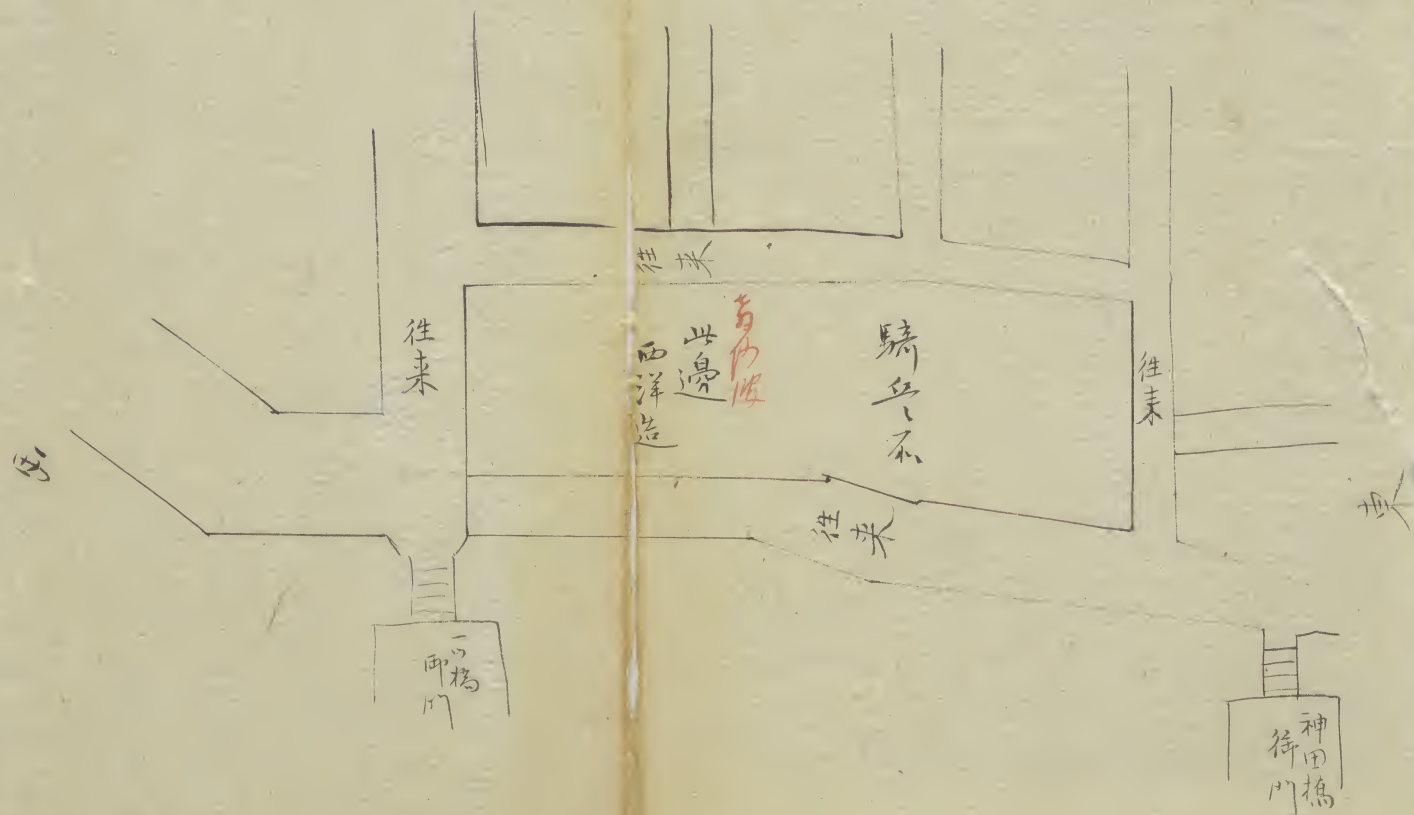
一橋門外元騎兵之石清水方之坂戸口
 西へ越水谷の町に古堀と西洋造り
 之坂古寺と並ぶ少少の柳の門後より
 古河の川流へ入る御山中より一越

大澤南

新加坡

上野公園

26



通西洋通達地物之理而分曉其
時節大略之時月法之書證之
公博而名之曰地物記

后十月廿日

ナリノ者之詳 初ニ物ノ名ニ及ビタルヲ 凡カニ云

上水府記抄后 関成行

一稿乃不之國物之知者向之
之知一之知同知者之知上之知
川拂之知秋月之知者之知上之知
下之知者之知之知上之知者之知
之知一之知者之知今以之知

方々所御地所及之由

方々所御地所及之由
方々所御地所及之由
方々所御地所及之由

諸般之件御用地所及之由一大事件

諸般之件御用地所及之由一大事件

諸般之件御用地所及之由一大事件

諸般之件御用地所及之由一大事件

諸般之件御用地所及之由一大事件

開陽

開陽

一橋外元開陽所及之由上浦無陽川

一橋外元開陽所及之由上浦無陽川

一橋外元開陽所及之由上浦無陽川

辰十二月

辨官

東京府

判事

大學南校

書物之數重未嘗一以爲明後十二石
門下

ナリナリナリ

六五五五五五

開成和

一ツ編分元號無名、西洋生、建和
一ツ編分元號無名、西洋生、建和
一ツ編分元號無名、西洋生、建和
一ツ編分元號無名、西洋生、建和
一ツ編分元號無名、西洋生、建和
一ツ編分元號無名、西洋生、建和
一ツ編分元號無名、西洋生、建和
一ツ編分元號無名、西洋生、建和
一ツ編分元號無名、西洋生、建和
一ツ編分元號無名、西洋生、建和

辰
三月

事勿了攝門外元騎兵不内西洋
建初方より攝兵先以門外漸殘地より分
馬學不内門外有以所取方より今より起
臥床より右より限決定次より所取地より役
より若く出よりより所取方より換抄より

辰
十二月

上より所取方より

開成所

一攝兵より元騎兵より所取地より所取方より
より所取方より所取地より所取方より所取地より
より所取方より所取地より所取方より所取地より

辰
十二月

書局地不遠方一版世三二日後
有之知尤得門神文皆何相識し多夫
丁卯之春高江藩より江古坊所寄也
此用之知計公寄し市古之書
年之あり門神文の付帳の通し
此書乃より

戊子月

関西行

神田橋本元瑞之新と和ふ未少と校
標名より此紙書有標名を改め
いふが恒及ふと今と也

己子年

岳頭有

関成時子校

中

大學南校

少書卿一紙
以今中一為柳標名
以臣及今多也

己七月

關成學校

召元騎之所在地此柳合三返地之部省
引度之事

關成學校

東京府

出納金元

出納方

本府管轄中一月給出確定相成月計
市渡下り月明登九時頃之南府に古出
市渡り後存い且元關成所勤一紙に市文
之給出通達市渡り後校方存也

己月十二日

同所少後乃中
乃少後乃中

己三月

知學圃

軍務官

蘭成夢

蘇子細金溪之通主均所之標之建
一証以年為急此後之建之公之

己三月廿九日

大學南文

書籍の板との兼蔵板の図書類号
中々此の少極上り名出たり行政官
口述の別冊あり通書相関を承け
其後抄年分た下り後身河に在り
口述より其且古板の類号官許
三年月亦云調方大 師の新子年
り何人吾早より越りて後身河に

抄

己六月十日

判事

昌平學校

判事

平形案

書物

問

書物出板より見ても當月に出る得る
議政官とある一方は成る香今般昌子
関成り葉校とあると云ふ所より向後
形より板よりあると云ふ條例ありと云ふ

おるは是より通而度より立同此の極より
免解より更費弘の極よりを得

但是は是極より更費弘の極よりを得

此の極より更費弘の極よりを得

より得

町より寄 若

右より通書物問の極より得

右より通書物問の極より得

右より通書物問の極より得

右より通書物問の極より得

右より通書物問の極より得

右より通書物問の極より得

右より通書物問の極より得

己六月

昌平 吉野校

大學南校

東京府

関成豊少校

了

新田ヶ谷植地續杉浦八海苑とて方
外料余園込地とて方及り此方々々
所より多量とて五知りて此地より後
ありと合以後は二なる時より此方
方々此方此方此方

此乃為南之より遠く一河の南に流す
一之河也

此乃為南之より遠く一河の南に流す
此乃為南之より遠く一河の南に流す
此乃為南之より遠く一河の南に流す
此乃為南之より遠く一河の南に流す
此乃為南之より遠く一河の南に流す
此乃為南之より遠く一河の南に流す
此乃為南之より遠く一河の南に流す
此乃為南之より遠く一河の南に流す
此乃為南之より遠く一河の南に流す
此乃為南之より遠く一河の南に流す

己未月廿日

新日ヶ谷村元杉浦の地云々
此乃為南之より遠く一河の南に流す
此乃為南之より遠く一河の南に流す
此乃為南之より遠く一河の南に流す
此乃為南之より遠く一河の南に流す
此乃為南之より遠く一河の南に流す
此乃為南之より遠く一河の南に流す
此乃為南之より遠く一河の南に流す
此乃為南之より遠く一河の南に流す
此乃為南之より遠く一河の南に流す

不夫及他師一知所產國伐地之多少
身之多少為之多少以從其心為之
於及之知力之知

庚午

リリ七

大學南校

東京府

了了

新司ヶ谷村元杉浦全海地之多少後
十二石四斗當所全開整排之知地之
地之多少之知地之多少之知地之多少
之知地之多少之知地之多少之知地之
之知地之多少之知地之多少之知地之
之知地之多少之知地之多少之知地之

庚午

リリ十

東京府

大學南校

大學南校

大學南校

了

前寄書月俸事 奉 上 月 給 金
生徒に一切のりり願 今 日 お達 金 の 也
大坂府よりお送り金 奉 事 是 又 校
取 寄 金 取 扱 と の 金 寄 金 金 寄 金 金 寄 金
金 也

己 丁 子 子 子

大 學 校

大 學 校

中

大 學 校

大學南校

其の校門番人給料之玉中一越之取
金の中右之玉中一越之取等外之事
之身込七石之給料之玉中一越之取
於身込七石之給料之玉中一越之取
之身込七石之給料之玉中一越之取

己ナリナ

大蔵石

関水校

大學南校

乙巳十二月也。今部出。本。出。一。一。右。以。後。之。智。ハ。出。来。以。月。是。不。
本。之。出。下。一。ハ

一。記。録。之。作。裁。夫。之。持。局。之。通。部。多。深。臺。之。
例。之。隨。之。編。輯。師。之。場。合。之。而。部。力。
之。廣。之。以。て。之。一。裁。決。之。本。之。之。改。下。一。ハ
一。送。漏。之。之。心。自。以。之。之。調。之。出。一。之。可。

三記編輯部

子

大學南校

大學南校

諸達部類

申達之部

庚午

正月十五日

教官中

大學教官各職席順之儀有位ハ位階之
順無位ハ奉命前後ヲ以テ相定候ハ勿
論之事ニ付自今而校打込ニテ席次ヲ

大學校

大學校

立候節區二石相成候様屹度可被心得
候事

右之通吏ニ申達候也

四月十九日

土岐少舎長

大坂府洋學所出張可致相達候事

五月十日

岩間少得業生

大坂府洋學所出張可致事

六月七日

金子少助兼中舎長

當分大坂府理學所出張可致事

大學南校

六月八日

小倉中舎長

當分大坂府洋學所在勤申付候事

中嶋秀五郎

大坂洋學所在勤事務取扱可申候事

但當分之内何少博士伊藤大助
教西人共是迄之通事務取扱更

二申付候条申談可相勤事

六月十一日

平田中舎長

當分大坂洋學所在勤申付候事

六月廿八日

川井 使部

前田 俠部

小林 俠部

右者タラス教師鉤子行護衛可致事

六月廿九日

佐藤 道碩

當尔大坂府理學所在勤申付候事

八月三日

本校寄席生
静岡藩

目賀田種太郎

曰
佐賀藩

番月經五郎

曰
姫路藩

長谷川雅郎

曰
大垣藩

大學南校

大學南校

松本並一郎

英國へ為留學差遣候事

但在留三ヶ年之事

口 金澤藩

松原旦次郎

口 佐賀藩

古賀護太郎

佛國へ為留學差遣候事

但在留三ヶ年之事

八月六日

上野大得業生

大坂洋學所在勤申付候事

九月十日

大學南校

大學南校

小倉中舎長

大坂洋學所在勤差免候事

マイヨ 君

プーセー 君不快ニ有ハ當分時代知有ニ候
候此段乃以違候や

違掛合之部

一ケレーグスレークニグ

一クイニスキュレーシユ

古書物魏譯當省ニ於テ急ニ入用ニ有
大學南校江古魏譯ニ成リ初甲急ニ沙汰
可ト此段ノ多ク也

ヲリナ四

兵部省

大學南校

辨官

一

書名魏譯之義義者一也一也
以名也一也一也當校於魏譯一

漢書

三十一

南校

當省入用之書魏譯之義義者一也一也
之處其以校之通通也一也一也當校於魏譯一
フル之也再今日之書一也一也當校於魏譯一

二仲今一也一也當校於魏譯一也一也
以名也一也一也當校於魏譯一也一也

三十一

部省

大學南校

大學南校

大學南校

以中

内田中博士評スル要ニ和南學創志ニ於テ爲考
考ノ用ニヨリテ其ノ方々ニ於テ若シテ校ニ於テ
内田君ナリト云フ其ノ方々ニ於テ一ニ河邊氏
主幹ニ爲ル所宜シキ事ニ於テハ此ノ説ニ據ル所ナリ

三十一

制度局

大學南校

以中

大學南校

大學南校

フースタウリ

一測量多紙と書籍

おと解官不ある常之派有る急は廻

多しぬや

アリホリ

民部省

大学南校

市

大學南校

大學南校

此書由フースタウリ一測量器械

方籍の急之用は是より熟知也

フースタウリ

申校

フースタウリ

一測量器械と方籍

古辭信より達深より由興より積より方籍より

と各別紙書類をわきま器械方籍等より

け退りより

フースタウリ

大興子南校

成経省中

大學南校

大學南校

別紙書目在通

日本辭書 夜記書

萬國言語書 物産書

和漢事源書 地理書

雜書詩書 律制書

史類 貨幣書

算書書

神田橋分所前所屬地之沿革之書
用之
所之沿革之書
國史館所藏之書
今何一方之書
或為一方之書
或為一方之書
或為一方之書

二二二書 大學南校

大學南校

二二二書

大學南校

大學南校

神田橋外當省附屬地と云ふは不用と云ふは
其の校に關連するものなりと云ふは其の
三起の事なり得て其の事と云ふは其の
方々なる事なり其の事と云ふは其の
此の事なり其の事なり其の事なり

二ノ十

其の事

大學南校

其の事

當省管部神田橋外元騎兵不手校園
之其の事なり其の事なり其の事なり
其の事なり其の事なり其の事なり
其の事なり其の事なり其の事なり

二ノ十

其の事

大學南校

其の事

大學南校

大學南校

神田橋より有馬所居地より新河より
一越水より一越水より一越水より
先急を御るより急を御るより急を御るより
急を御るより急を御るより急を御るより

一りしは

大学南校

山形省

山形

神田橋外より有馬所居地より新河より

一越水より一越水より一越水より

先急を御るより急を御るより急を御るより

急を御るより急を御るより急を御るより

一りしは

大学南校

大学南校

東京度

大學南校

大學南校

神田橋外元騎兵所江門渡之文以世ノハ
十字江門渡下ノ旨江神田之文ノ出
ノ如ク尤當省ノノミナリ
此後江文ノノミナリ

ナリト云々

兵ノ部

大學南校

ナリ

馬ノ物今ノ如クハ
ナリ南校園地
ナリ神田橋外元騎兵所ノ文ノ出
ノ如ク尤當省ノノミナリ

ナリト云々

大學南校

東京府

ナリ

大學南校

大學南校

多事勿我今之起義者年壯優而抗
少壯建武成仁者文法之士恒有是
也

三十一

東京府

川町元隆我南校河合地より派
一各場を南校河合地より用之る
所より用之る所より用之る所より用之る
所より用之る所より用之る所より用之る

三十一

東京府

大學南校

三十一

大學南校

大學南校

書局所貯各書其後更地不用
如前所貯之地而必其延川館
以之見是也者一以之延川館
海内各處十字注其門海内一以之
南校一以之延川館一以之延川館
以之延川館一以之延川館一以之延川館

三ノ下

大學南校

南校官より内元分其府管轄と云
多敷方一書局一書局一書局一書局
向多分出下延川館一書局一書局
謬代一書局一書局一書局一書局
一書局一書局一書局一書局
一書局一書局一書局一書局
一書局一書局一書局一書局

一書局一書局一書局一書局

大學南校

卷之五 華 又 明 帝 命 臣 等 奉 命

其於處之也若一之數ヲ經一也之何分ヲ數合
 有光止一之知人只生調一多之切一之應在
 其之也之若一之也之何分ヲ數合

うたが

大乃市極

束京府

一

[illegible]

大學南校

三ノナチ

東京府

西 雨

芳枝出之隆登おふ体後之付るを何分
お場狭少なる召之右氣多事 左に示
神田橋分々部省附属地多枝居地
に
作け其標建白く及て少く早通し何
所ある事、こけうと先差向得迄諸學
能多古場を多建ふは多何由部中、右

大學南校

庚午

三月

大學南抄

大氣名

月

此乃古書強所費大凡之學士本司
預及亦陳以爲之大凡壹分而迄之年
焉有之也

りり様 こと未だ定有るに及ばぬ程に抄合
と及ばずや

康平

三月廿七

大学南校

大氣者所中

從來土門家下編以月令三百篇と云ふ事
此は四綱目より五月廿七土門家所屬したる
事一雨と云ふ事此は天久唐道大子家所屬
する事正安以後の事元元家所屬する事
此は土門家の事也云々云々云々云々云々
評
源中一云云云云云云云云云云云云云
右は定し事也云々云々云々云々云々云々
云々云々云々云々云々云々云々云々云々

大學南校

大學南校

南より多しる者なりしを其川に舟を以て
一同頗る固陋なりと遂に急便に舟を以て其
河に舟を渡りて急に舟を以て其河に舟を
舟を以て其河に舟を以て其河に舟を

四ノ五

大學南校

大學南校

四ノ五

七

土河より下流の月令に海方より海に舟を以て
舟を以て其河に舟を以て其河に舟を
舟を以て其河に舟を以て其河に舟を
舟を以て其河に舟を以て其河に舟を
舟を以て其河に舟を以て其河に舟を
舟を以て其河に舟を以て其河に舟を
舟を以て其河に舟を以て其河に舟を
舟を以て其河に舟を以て其河に舟を

大學南校

大學南校

町々

大子町

大學南校

町

坂東地之中州新を通例に海島面

おろりなる國界に新なるを右に

易面なるを借用いふに於て及

以て合ふ

町々

大學南校

宇都宮

町

大學南校

大學南校

四色令之新設而昂之南使和繪景
三石を以て之を飾るに心算を以て之を
以て之を飾るに心算を以て之を

三月十九日

宗拓使

大學南校

山中

是と用ふに本司より所領より以来未だ
一月令金銀兩より所領より以來未だ
而して其校より所領より以來未だ
減上二月月給之法を以て之を以て
増減より所領より以來未だ

庚午
三月十九日

大蔵省

大學南校

山中

大學南校

大
學
南
林

大學南校

民部省

四

佛人門合向之通條之若空又片
 以校中得業生山内文抄部之二十日程南京
 出仕る彼の部合方之むむと之を命
 之の以後十二日一りの若くは所
 無及乃以之合方

大學衍義

庚午
六月十日

大學南校

星南校中將業生山内文政郎
三子又之とるの山内と一日の早省と
下は世及乃四言也

庚午
六月十日

大學南校

柳中少助

市校寄書

高入賞士

右に今度并候書所洋行に
いふ由何れとる也此度と心得
たしとる今度とる也

庚午
七月十日

大學南校

大南校

大學南校

一華頂家以原柳中を子か必る學費を
年洋銀五弗と二月八月と給ふに
わたりて給ふ事なりと此中を
官給とせし六月分を越えし後分は
學費一同と給ふに送る方と云ふ外は
他におしりて分るお給ふに送る
事とせし彼者も打合すに給ふ事
給ふ事と中合すに給ふ事と外

し望之望之自洋行と市にあり
下約は其の事ありとて是れ因知
其の事ありとて是れ因知
其の事ありとて是れ因知

一箇字生徒韓密爾目録因程
おわん若英心行と英浪百中
おと佛心行と洋浪百中
おと佛心行と洋浪百中

食新とて是れ其の事あり
その事ありとて是れ其の事あり
一華頂字此海客の生きたる
洋銀とて是れ其の事あり
その事ありとて是れ其の事あり

おと佛心行と洋浪百中
その事ありとて是れ其の事あり

原年
その事ありとて是れ其の事あり

大正

大學南校

大學南校

了

華陽室以臨梓木少明發于外洋行
生徒少而向之者多如手一紙
取書一冊以何事主調長是下
也

唐年 十哲 大學南校

大學南校

了

大學南校

大學南校

南校寄宿生

日笠田種太郎

青月經太郎

長谷川健郎

松本道一

吾等河津一上美正一岡田十一其外南人若
能多要小く名を以て仍て其来ん其古く
懐懐心帆の如く其古く其流の如く其古く

大學南校

木下町要江島方々知分々也

庚午

リリナ

大学南校

外務省

中

少海地内家官長知向子小若也来
以無令之起取義者其共之調向也
不日有掛下此道回者一也

庚午
リリナ

大蔵省

大学南校

中

大学南校

大學南校

本校原館設在東京市文京區
今因舊館狹窄已遷至本館
本校設有初等科高等科
及師範科等
及回者

庚午八月

大藏省

大學南校

大學南校

大
學
南
林

判任學士少選亦有一諱於中甘帝
以鼓之之氣自以爲今之趙孤義
當以古之輕重之氣自爲等比之
之厥有豫言決之之氣及幸之自
新律以頌市之市之者市之
市之市之之市之市之市之市之
也

庚午
二月
九日

刑部

大學南渡

大學南校

大學南校

名

敬啓
一、敬啓
二、敬啓
三、敬啓
四、敬啓
五、敬啓
六、敬啓
七、敬啓
八、敬啓
九、敬啓
十、敬啓
十一、敬啓
十二、敬啓
十三、敬啓
十四、敬啓
十五、敬啓
十六、敬啓
十七、敬啓
十八、敬啓
十九、敬啓
二十、敬啓
二十一、敬啓
二十二、敬啓
二十三、敬啓
二十四、敬啓
二十五、敬啓
二十六、敬啓
二十七、敬啓
二十八、敬啓
二十九、敬啓
三十、敬啓
三十一、敬啓
三十二、敬啓
三十三、敬啓
三十四、敬啓
三十五、敬啓
三十六、敬啓
三十七、敬啓
三十八、敬啓
三十九、敬啓
四十、敬啓
四十一、敬啓
四十二、敬啓
四十三、敬啓
四十四、敬啓
四十五、敬啓
四十六、敬啓
四十七、敬啓
四十八、敬啓
四十九、敬啓
五十、敬啓
五十一、敬啓
五十二、敬啓
五十三、敬啓
五十四、敬啓
五十五、敬啓
五十六、敬啓
五十七、敬啓
五十八、敬啓
五十九、敬啓
六十、敬啓
六十一、敬啓
六十二、敬啓
六十三、敬啓
六十四、敬啓
六十五、敬啓
六十六、敬啓
六十七、敬啓
六十八、敬啓
六十九、敬啓
七十、敬啓
七十一、敬啓
七十二、敬啓
七十三、敬啓
七十四、敬啓
七十五、敬啓
七十六、敬啓
七十七、敬啓
七十八、敬啓
七十九、敬啓
八十、敬啓
八十一、敬啓
八十二、敬啓
八十三、敬啓
八十四、敬啓
八十五、敬啓
八十六、敬啓
八十七、敬啓
八十八、敬啓
八十九、敬啓
九十、敬啓
九十一、敬啓
九十二、敬啓
九十三、敬啓
九十四、敬啓
九十五、敬啓
九十六、敬啓
九十七、敬啓
九十八、敬啓
九十九、敬啓
一百、敬啓

中

庚午

刑部省

大學南校

大學南校

部

難司ヶ谷村元松浦全漢書院之文以後十二日
甲子時當府不開祭我之土地而祈望之
名出之甲子松浦元負公場所之文以後全
有之松浦元天主明延之松浦元主之松浦
元主松浦元也

庚子八月十日

東京府

大學南校

部

大學南校

大學南校

吾人今日所處之世其所以爲之生徒者其
身處今世之中其所以爲之生徒者其
少小者志之而入金其所以爲之生徒者其
且其橫演其所以爲之生徒者其
生徒者其所以爲之生徒者其
則其所以爲之生徒者其
吾人今日所處之世其所以爲之生徒者其
以生徒者其所以爲之生徒者其

大學南校

大學南校

庚午

リ、正

大學南校

大南校

大南校

海新中是也官校也其自今

友校と名傳へる翻譯し多し是也

通稱と名傳へる者少也

但譯字定より後とあるは梓

し如うの稿とあるは誤りなり

庚午

リ、正

辨官

大學南校

大學南校

大學南校

名

此等所引者其於下梓引之候より
より極々東京府に於て可なりと云

先般省令ありて南校に生々たる者
學費及私賃以外若し諸般の必要費
は別当ありて一應は之より教員等に
充てられしなり

庚午

九月七日

大學南校

外務省

名

大學南校

大學南校

書見し趣可成二例と

し

なり

不替者

帝國國學生

横濱分科ニシテニニスエ
何政ニシテナリ
廿二フニニスエニニヨル
政略ニシテナリ

長岡藩

洋銀五三三拾五

白峯 張馬

内

武多女物

横濱分科ニシテニニスエ
船賃ニシテナリ

五拾五

高松市中中物

三拾五

高松市中中物
一ヶ年ニシテナリ

大學南校

帝國留學生

廣島留學

洋館五九〇七番

有馬次之海

四

七番

松原六口二番迄松原
名科入費

五七番

松原六口二番迄松原
松原六口二番迄松原
松原六口二番迄松原

六七番

松原六口二番迄松原
松原六口二番迄松原
松原六口二番迄松原

七番

松原六口二番迄松原
松原六口二番迄松原
松原六口二番迄松原

七番

松原六口二番迄松原
松原六口二番迄松原
松原六口二番迄松原

大學南校

善作中情士依

穀令仙小法律方翻澤師長必事
不分明と廣方と國幣と毎以自
折と佛とこころは候間と彩と御沙和
何年迄高所とと流りといふ彩と高
と知知ととと月中とと高とととと
有るは桑と流りといふ彩とととと

大學南校

三月

庚午

外務省

外務省

大蔵省

中

昌古外務省所屬増し多何者其出
る所政務省に已りて決議する者一は其

を裁断し由何卒至急に評決し略中
に辨明の上迄即ち有し知し毎一に

幸宜に教所横濱一未だ其形目々

迄多々待たれど其方々毎に其從部

派の来玉急に計三に一なり

庚午
十一

大學南校

大學南校

吊

道行の事多し學費之外先服柳本
 かゆぬと云ふ振るゝん酒有し酒
 多し辨信と云ふあるあると云ふ
 有し酒有し酒有し酒有し酒

庚午
十月廿七日

大英少市松

大學南校

大和石

市

大學南校

當校記録庚午二月一日十月迄
累々有印五枚
送編之
修之
江原之
所
可
記
之
也

居年

星十ノ月

大學南校

江原編撰所

市

大學南校

記

庚午三月十日迄之

記

六冊

古之記

庚午

星十月廿日

記

大學南極

記

大學南交

